

主題：養護老人ホームにおけるソーシャルワーカーの役割について
 —多職種連携での自己決定支援に焦点をあてて—

○ 横浜国立大学大学院博士後期課程 氏名 藤原 ヨシ子 (8305)

キーワード3つ：ソーシャルワーカー、自己決定支援、多職種連携

1. 研究目的

本研究は、平成 22 年に行った特別養護老人ホームのソーシャルワーカー（厚生労働省令上は生活相談員、以下ソーシャルワーカーと称する）を対象にした多職種連携での自己決定支援についての調査研究の結果を基に、養護老人ホームにおけるソーシャルワーカーの役割を多職種連携での自己決定支援に焦点をあてて明らかにすることを目的とした。

現在の社会におけるソーシャルワーク実践に欠かすことのできない多職種による専門職連携（IPW）との関係から、社会福祉実践現場で行われているソーシャルワーク実践での利用者の自己決定を尊重するという事に注目した。

養護老人ホームのソーシャルワーカーが行っている自己決定支援は、環境上の理由及び経済的理由により、居宅において養護を受けることが困難ではあるが、日常生活については自立している高齢者を対象としている。

しかし、養護老人ホームの高齢者は、総じて親族等との関係が希薄である上、要介護状態の高齢者、精神科病院退院後の高齢者等社会的支援が必要な高齢者が増加しており、養護老人ホームの今日的課題としてソーシャルワーク機能の強化が位置付けられている。

日常生活については自立しているが、社会的支援が必要な高齢者の自己決定支援を、多職種と連携してどのように行っているかについて、実際に支援を行っている生活相談員にインタビューを行い、そのデータを質的に分析することによって、養護老人ホームのソーシャルワーカーの役割について深く考察したいと考えた。

2. 研究の視点および方法

養護老人ホームのソーシャルワーカー 5 人のインタビュー結果を文字データ化し、文字データ化したものを質的に分析した。

このことによって、養護老人ホームにおけるソーシャルワーカーの役割について、多職種連携での自己決定支援に焦点をあて、その基本的枠組みを明らかにしようと試みた。

3. 倫理的配慮

文書及び口頭にて、調査の目的、面接調査の期間・方法、記録（録音）、分析方法と手順、結果の使用法と目的、論文について説明を行い、了承を得て、特に個人が特定されないよ

う留意し、分析をより適切に行うため、分析協力者等（主に指導教官）に対してのデータの一部開示については個人が特定されないよう守秘義務について履行した。

4. 研究結果

インタビュー対象となった5人が語る多職種連携での自己決定支援におけるソーシャルワーカーの役割は、各々の特徴を有していた。

しかし、その一方で、共通する要素も含んでいた。

この共通する要素に注目しまとめたものとして、以下の内容を表すことができた。

養護老人ホームのソーシャルワーカーの役割は、対象者と社会の関係性についての総合的な把握と、それらへの調整、介入であった。

また、この対象者と社会を総合的にとらえ調整、介入機能を果たすために、ジェネラリストであることの必要性やジェネラリスト教育の必要性を強く意識しており、ジェネラリストとしてのスペシャリストであることが他職種との違いであることが示唆された。

さらに、対象者の自己決定と支援の関係についてもつジレンマも抽出された。

対象者の判断能力が不十分な場合には、対象者の自己決定の代替方法や対象者の意思に寄り添う方法をどのようにするか、または、対象者以外が対象者について判断したことを支援することについてのジレンマを抱えていた。一方で、対象者に自己決定できそれを表明する力があっても、その判断や決定が社会秩序と照らして考えた時に正当と考えられない場合、対象者の自己決定を尊重する支援が正しいのか、対象者の自己決定を押さえてでも社会秩序に照らした支援をすることが正しいのかというジレンマを抱えていることがわかった。これについては、ソーシャルワーカーとしてどのように判断をすべきか、判断の拠り所を常に考え支援していることが明らかになった。

5. 考察

本研究は、特別養護老人ホームのソーシャルワーカーのインタビュー調査を基に、5人の養護老人ホームのソーシャルワーカーのインタビュー調査の逐語録に基づく質的研究である。このため、本研究の対象となったソーシャルワーカーが行う、多職種連携での自己決定支援における役割については提示することができた。

しかしながら、普遍的なソーシャルワーカーの役割については提示することができていない。そのため、今後、他の施設種別のソーシャルワーカーの役割について考察することが必要だと思われた。

そのことにより、多職種連携での自己決定支援での他分野のソーシャルワーカーの役割と、今回の調査結果を比較検討することができ、これらのことを積み重ねていくことで、高齢者福祉施設における多職種連携での自己決定支援におけるソーシャルワーカーの役割について、普遍的な特徴を提示することができると思われる。